

医療法人川崎病院 薬剤部のご紹介

神戸と一緒に病院薬剤師として働きましょう！

01 | **川崎病院について** (病院情報、沿革など)

02 | **薬剤部について** (人員構成、認定資格者など)

03 | **業務について**

04 | **教育について**

01 | 川崎病院について (病院情報、沿革など)

病院情報

- 名称：医療法人川崎病院
- 所在地：兵庫県神戸市兵庫区東山町3-3-1
- 病院長：西村 元延 (にしむら もとのぶ)
- 職員数 (2024年4月1日現在 計 543人)
 - 医師・歯科医師：68人 ●看護師：292人
 - 薬剤師・医療技術職：110人 ●事務職：73人
- 病床数：278床 (ICU4床、地域包括ケア病床48床、地域包括医療病床47床、人間ドック5床を含む)

病院沿革

- 1936年1月 川崎病院開設 (196床)
- 1950年9月 川崎造船所附属病院から独立し「医療法人川崎病院」へ
- 1973年5月 人工透析室設 (6床)
- 1975年11月 CCU開設・人工透析室11床に増設
- 1976年11月 心臓血管病センター開設
- 2006年5月 地域医療連携室開設
- 2012年4月 兵庫県よりがん診療連携拠点病院に認定
- 2014年2月 川崎病院西館改築、278床に
- 2015年4月 神戸市より災害対応病院に指定
- 2018年4月 兵庫県より地域医療支援病院に認定

診療科目 (計25診療科)

- 内科 ●糖尿病内分泌内科 ●血液腫瘍内科 ●腎臓内科
- 消化器内科 ●循環器内科 ●外科 ●消化器外科
- 血管外科 ●心臓血管外科 ●肛門外科 ●整形外科
- 皮膚科 ●泌尿器科 ●婦人科 ●眼科 ●耳鼻咽喉科
- 形成外科 ●歯科口腔外科 ●放射線科 ●麻酔科 ●救急科
- リハビリテーション科 ●人工透析内科 ●臨床検査科

付属施設

- 循環器病センター ●がんセンター ●糖尿病センター
- 手術センター透析センター ●内視鏡センター ●リハビリセンター
- 健診センター ●在宅医療センター ●患者支援センター

主な指定

- 兵庫県救急告示医療機関 ●神戸市二救急輪番制当番病院
- 神戸市災害対応病院 ●兵庫県がん診療連携拠点病院
- 兵庫県地域医療支援病院 ●兵庫県紹介受診重点医療機関
- 臨床研修指定病院 ●兵庫県在宅療養後方支援病院
- 日本医療機能評価機構 病院機能評価認定施設



02 | 薬剤部について (人員構成、認定資格者など)

目標

- すべての入院患者さんの薬物治療に関わる
- 薬あるところに薬剤師あり
- 働き（休み）やすい職場づくり

認定資格者等一覧

がん薬物療法認定薬剤師	1名
外来がん治療専門薬剤師	1名
抗菌化学療法認定薬剤師	1名
日病薬病院薬学認定薬剤師	10名
糖尿病薬物療法認定薬剤師	1名
老年薬学認定薬剤師	1名
実務実習指導薬剤師	3名
病院薬学認定薬剤師	12名
認知症予防専門薬剤師	1名
腎臓病療養指導士	1名
糖尿病療養指導士	3名
骨粗鬆症マネージャー	1名
NST研修終了	2名

人員構成 (在籍：19名)

- 部長：1名 ● 科長：1名 ● 主任：3名 ● 部員：12名
- パート薬剤師：1名 ● 事務員：1名

年齢構成

- 20歳代：7名
- 30歳代：6名
- 40歳代：3名
- 50歳代：1名

出身校

- 神戸薬科大学 ● 神戸学院大学
- 大阪医科薬科大学 ● 徳島大学
- 近畿大学



主な業務（病院薬剤師がこなすべきほぼすべての業務を行っています）

- 1、病棟活動（薬剤管理指導、注射の混合、病棟在庫薬の管理、カンファレンスへの参加、現場対応のD I 活動）
- 2、内服薬の調剤（内服薬・注射の調剤、医薬品情報を整備・発信、患者持ち込み薬の鑑別）
- 3、注射薬の調剤
- 4、無菌調製・抗がん薬調製業務
- 5、手術薬品管理
- 6、院内製剤
- 7、DI（医薬品情報管理業務）
- 8、外来抗がん剤指導
- 9、入院前支援
- 10、チーム・委員会活動
- 11、勉強会
- 12、学会・研究活動……etc.



処方監査



抗がん剤の調製



病棟でのミキシング



病棟薬剤師ミーティング



チーム活動で病棟回診

目標達成のための具体的な取り組みと結果

- 全病棟に専任薬剤師を配置。病棟に薬剤師専用のデスクがあり、「居場所」があるため、医師や看護師との距離も近い。
- 薬剤指導管理料の算定率80%以上
- 病棟でのミキシングは当たり前
- 一人の薬剤師に頼るのではなく、全員がすべての業務が行えるようにしている。2024年に新人の教育プログラムも改定。
- 何でも言える、すぐに相談できる雰囲気づくり。（惰性ではなく！）報！連！相！
- 平均有休取得日数 11.9日（2003年実績）
- 3年間離職者ゼロ

04 | 教育について～ジェネラリストを目指して～

川崎病院の薬剤師が目指すところ

まずはジェネラリストを目指します。様々な病態の患者さんがおられる臨床の場で薬の専門家として対応が出来るような教育が必要です。そのうえでより知識を深めたい場合は認定薬剤師などの資格取得を目指すことになります。川崎病院薬剤部には感染症やがん薬物療法などの認定薬剤師が在籍しているので先輩から学ぶことも多いと思います。

入職して1年目は指導担当の先輩薬剤師がマンツーマンで対応します。

「社会人としてのありかた」に始まり、「調剤業務の実践」、「病態の理解」など、一人前の薬剤師に必要な教育プログラムを準備しています。

2年目以降は、病棟や外来で活躍できるように業務を通じた知識の習得を目指します。

医療業界は日々新しい薬が生み出されているので薬剤師になってからのアップデートがとても重要です。製薬会社のMRの方や、院内外の医師、薬剤師などを講師とした勉強会は年40回程度開催しており、我々も、自ら学ぶという姿勢を忘れずに成長したいと考えています。



いつでも先輩に相談できる雰囲気です



1年目の先輩の声

志望動機

- 大きすぎず、小さくもなく、中規模でいろいろなことを経験できると思ったから。
- 交通の便が良いから。
- 見学したときの雰囲気が良かったから。

やりがい 仕事の魅力

- ミキシングをしたり、TPNを混ぜたり、調剤をしたり、いろいろなことができて楽しい。
- はじめは調剤しかできませんでしたが、麻薬調剤、TPN、手術薬品の管理、抗がん剤の調製、書記など、できることが増えてきて、やりがいを感じています。

これからの目標

- 当直や病棟デビューに向けて、たくさん仕事を覚えて、たくさん知識を身につけていきたいです。
- まずは勉強すること。患者さんとうまく話せるようになる。仕事を覚える。抗がん剤の調製担当になったところなので、抗がん剤について勉強していきます。